

Special Interview

青春学園ドラマで活躍した伝説のアイドル&名優 井上純一【Junichi Inoue】



1978年から1979年まで日本テレビで放送された人気青春学園ドラマ『ゆうひが丘の総理大臣』の柴田良次役をはじめ、数々のテレビドラマや映画、舞台上で活躍し続けて来た井上純一。1975年に映画『はつ恋』でデビューを果たす。

それ以前、1974年にジャニーズ事務所に入所。1975年に『恋人ならば』でソロレコードデビューを果たし、たのきんトリオ出現前のジャニーズ事務所低迷期を支え、雑誌のグラビアを飾り、プロマイドの売れ行きも好調だった。1978年には見事エランドール新人賞を受賞。

1970年代後半以降は俳優として大活躍し、現在も舞台を中心に脚本や演出も手掛けていている名優とのインタビューが実現！

“ソーリ”こと、中村雅俊さんの「おい、柴田！」という叫び声が聞こえて来そうなノスタルジーに満ちた貴重なインタビューとなった。

2025年8月21日 都内某所

取材・文：鯉登正之／写真提供：株式会社 NLT

♪ 現在の活動についてお聞かせ下さい。

もう20年以上続いているんですけど、毎年夏から秋にかけて、有志の人たちを集めてやっている舞台がありまして、今まさに稽古の真っ最中なんです。僕が台本を書いたり、演出することもあったり、違う人がやる時もあるし、その都度様々です。東京での公演はなくて、いつも地方でやっているんです。今年は夏に1回公演を終えて、9月に公演が残っています。内容は多岐に及んでいます（笑）。もう27年も続いていますから、オリジナルもあるし、歴史上の実在した人物の話もあるし、それはもう様々ですね。今年の舞台のタイトルは『新釈 西遊記』です。『西遊記』って、世界中でいろんな解釈で演じられているんですけど、原作は難しすぎてよくわからない。そこを新しい切り口で解釈しています。今回、僕は演出と猪八戒役で出演もしています。

♪ 井上さんは孫悟空役ではないのですかね？！

はい、猪八戒です（笑）。ところがですね、27年の歴史の中で、一番最初の公演が『西遊記』で、僕はその時は孫悟空役だったんです。今回で『西遊記』は2回目なんですけど、前回とは全く違う作品になっています。規模も大きくて、関わっている人は100人くらいいますね。自分で言うのもなんですけど、めちゃくちゃ面白いです！

♪ 東京近郊で公演はされていないのですか？

東京での公演は、最近では『しあわせの雨傘』という舞

台がありました。九州以外は全国周りましたね。最初の公演が2016年で、その後何度か再演していて、最後がコロナ禍の2021年でした。お陰様で、この舞台は好評でした。

♪ 最近好んで聴いている音楽はありますか？

好きなのは ZARD、坂井泉水さん！ ZARD が大好きで、アルバムも全部持っています。残念ながら、コンサートは音楽業界の伝を持っている人に頼んでも、チケットが全然取れなかったですね。一番好きなアーティストは誰？って聞かれたら、坂井泉水さんかな。声が好きですね。

♪ 1970年代はどんな音楽を聴いていたのですか？

当時サイモン＆ガーファンクルとか流行ってましたから、人並みに当時流行っていた音楽は聴いていましたね。ビートルズは僕らよりちょっと上の世代なんですよね。ビートルズもひと通り聴いていましたけど、ハマることはなかったですね。ただ、僕が一番ハマったのはフォークミュージックだったんですよ。中学生の時に受験勉強をしていた頃、『セイ！ヤング』っていう文化放送のラジオ番組が凄く人気だったんです。谷村新司さんとか大好きで聴いていた頃、ラジオから流れて来たのが、かぐや姫の『神田川』だったんですよ。あの曲を聴いて、なんだったの歌は？ってショックを受けてましてね、それです。それはかぐや姫にハマったんです。かぐや姫が解散してから、メンバーだった伊勢正三さんが風っていうフォークデュオで活動されて、『22才の別れ』が大ヒットしたんですけど、風にもハマりましたね。

♪ 当時ギターは弾いていたのですか？

中学2年生の時に新聞配達をしたんです。その時にお金を貯めて買ったのがギターでした。親友がいて、2人で新聞配達をして、親友が小柳ルミ子の大ファンで、僕は天地真理の大ファンだったんです（笑）。それで、2人でフォークギターを買って、よく天地真理とか小柳ルミ子の歌を歌っていました。当時は、明星とか平凡という雑誌に楽譜が付いていたんですよ。それでギターを覚えましたが、その頃のことはよく覚えていません。

♪ ギタリストを目指したこともあったのですか？

その後もギターは弾いてはいたけど、あまりそっちの方に行く感じではなかったですね。コンサートもやったことがあって、弾き語りもしましたけど。ギターはアコースティックで、弾くのはずっとフォークでした。

♪ ジャズを聴かれることはありますか？

正直に言わせてもらおうと、ジャズはほとんど聴かないです。体質的に完全にフォークソング体質でしたからね。ジャズが嫌いとか趣味じゃないとか、そういうことではなくて、聴く習慣がなかったんです。僕たちの時代は、アイドルが始まった時代なんです。新御三家（郷ひろみ、西城秀樹、野口五郎）が出て来て、そして、花の中三トリオ（森昌子、桜田淳子、山口百恵）とか、天地真理、南沙織、小柳ルミ子とも出て来て、ちょうどアイドルにハマる時代だったんですよ。それで、僕は天地真理と風にハマっちゃったわけです（笑）。

♪ 天地真理さんと直接お会いする機会はありましたか？

歳を取られてから会ったことがあります。全盛期の頃は会ってないですね。知人を通じて、天地さんが引退されて暫く経った頃にお会いしました。天地真理さんのDVDも買いました。それも最近（笑）。昔の真理ちゃんのDVDが出ているのを知って、買って観ました。

♪ 井上さんもアイドルとしてデビューされ、シングル12枚、アルバムもリリースされて、後に俳優さんとしても活躍されますが、デビュー当時はそのままアイドルとしていく予定だったのですか？

ぶっちゃけた話を言うと、中学3年生の時に、明星に「あなたもフォーリーブスの後ろで踊りませんか？」っていうジャニーズ事務所のオーディションみたいな広告が載ってたんですよ。僕はそれに応募したんです。それで、事務所から「ちょっと来て下さい」と電話がかかって来たんです。事務所の女性が近くのマンションへ通してくださって、そこにいたのがジャニーズさんだったんですよ（笑）。何なの、このおじさん？みたいな（笑）。そして、気が付いたらデビューすることになってたんです（笑）。運命ですね。歌でデビューして、最初はJJSというジャニーズJr.みたいなグループに入って活動していたんです。一応ソロで3枚くらいレコードを出したんですけど、ほとんど売れなかったんですよ。そして同時にドラマもやりました。ドラマの仕事はマネージャーが取って来てくれたんですけどね。

♪ 俳優としては、どのようにスタートされたのですか？

NHKの朝の連続テレビ小説で、「雲のじゅうたん」というのがあったんです。僕は特攻隊員の役で、女性初のパイロットの話しなんです。浅茅陽子さんが母親で、僕はその息子役で、自分も飛行機に乗りたいと特攻隊に志願して死んでしまうんですけど、今思えばすごく良い役をもらいました。その後、日本テレビの勝野洋さん主演の『俺たちの朝』とか、そういうドラマに出させてもらうようになったんです。スタッフと



の関係も少しずつできて来て、芝居ってなんか面白いなって思うようになったんです。

それで、ちょうどその頃放送されていた中村雅俊さんが松田優作さんと共演した『俺たちの勲章』っていうドラマがあったんですけど、視聴率が悪くて打ち切りになっちゃったんですよ。あとワンクールどうしよう？という話になって、日本テレビのプロデューサーが、こうなったらもう昔の学園ドラマみたいなのをやろうって話しになったんです。夏木陽介さん、竜雷太さんとか、日本テレビは学園ものが得意だったんですよ。中村雅俊でやろうっていう話になったんですけど、あまり期待されていなかったみたいなんです。それで、『青春だ真中！』っていうドラマをワンクールやったんですけど、これが当たっちゃったんですよ！じゃあ続けて学園ものをやろうとなって、それで『ゆうひが丘の総理大臣』が始まったんです。スタッフやキャストも『青春だ真中！』とほとんど全部同じだったんです。

♪ その頃、音楽活動から俳優としての活動が増えていった時期と思いますが、葛藤はありましたか？

俳優として芝居するのが面白くなって来て、ずっとその流れで芝居は続けていたんですけど、僕のマネージャーがなんとか井上純一で歌をヒットさせたいと思ったんでしょう（笑）。劇中歌とかね、そういうのをプロデュースしてもらって何枚かレコードを出したんですけど、僕は何も言えなかったんです（笑）。その頃はベースはもう俳優でしたね。一応ファンの子たちも少しはいてくれたんで、コンサートはやってましたけど（笑）。

♪ 『ゆうひが丘の総理大臣』の撮影はいかがでしたか？

当時は毎日撮影に行くのが楽しくてしょうがなかったですね。こうやって芝居を作るんだとかね。雅俊さんだったから、雅俊さんの性格もあるから、凄く現場も楽しくて、一緒に出る人たちともっとこうやった方がいい！どうやったらもっと面白くできる？みたいにみんなでやり合って、スタッフとも仲良かったんで、本当にみんなで作っている感じでした。ほとんど毎日撮影があるわけですから、本当に普通の学園生活を一緒に送っていたという感じでした。最後の撮影は大磯でしたけど、あの時のことはずっと忘れません。あれはもう芝居じゃなかったですね。本当にみんなとの別れが寂しかったです。

♪ ドラマ終了後も定期的に会ったりはされたんですか？

前島役をやった松原秀樹もジャーニーズ事務所、今はずいぶん有名でベタベタですけど、その時から凄く仲が良く、山川役の清水昭洋とか冬木役の草川祐馬とかとも凄く仲が良かったです。それで、『ゆうひが丘の総理大臣』でデビューしたダウンタウンの浜ちゃんの奥さん、島村聖名子（現・小川菜摘）っていうんですけど、彼女が幹事みたいなことをやっていて、時々僕たちを誘って飲み会をやるんですよ。1年に

1 回くらいペースで今もやっています。雅俊さんにも定期的にお会いしていますね。去年、雅俊さんが明治座で舞台をやった時に、サプライズで僕と清水がいきなり舞台に出て『ゆうひが丘の総理大臣』の主題歌を歌ったんです。何も知らなかった雅俊さんはびっくりしていましたね（笑）。

♪ 今年放送開始 50 周年を迎えた『俺たちの旅』は、2026 年 1 月に映画『五十年目の俺たちの旅』が公開されますが、『ゆうひが丘の総理大臣』も何かの形で再会の場面を見てみたいです！

『ゆうひが丘の総理大臣』で？ みんな元気じゃないんで（笑）。僕たち生徒役はもう還暦ですわね（笑）。でも、特に島村聖名子がデビューした作品だし、今でも彼女と話をすると、とにかく当時の撮影のこととか、全てがまるで宝物のように残っているんですね。僕にとってはもちろん、あの作品に参加したみんなにとって“一生の宝物”ですね。

♪ デビュー当時は、爽やかなキャラクターと共に、「ポストひろみ」「クリーン・エイジの白い恋人」というキャッチフレーズが付いていたそうですが、当時ご自身はどのように思われていたのですか？

（笑）当時僕は 17 歳くらいでしたからね。今 67 歳から 50 年前ですよ。つまりですね、自分の意思なんてないんですよ。周りが勝手に動いて、お前これやれ！ あれやれ！ って言われて、僕はただそれに乗っかっているだけでしたから。今思うと、本当にそういう時代だったんだと思うんですけど、性格的に僕はそんなことできない！ とか言わなかったですし、言われるがままにやっていましたね（笑）。

♪ ラジオ番組『井上純一の Knight in the Night』『サンデーミュージックパートナー 井上純一です』も担当されていましたが、当時はどのような音楽をかけていたのですか？

フォークとか当時流行っていた曲でした。ラジオも面白かったですよ。当時のディレクターとは今も付き合いがあります。

♪ 『ゆうひが丘の総理大臣』『俺たちの旅』など、1970 年代の青春ドラマが今も支持される理由は何だと思えますか？

凄くいい質問ですね。そうですね！ つまりですね、結局、人は何に心が動くかという、やっぱりみんな一緒だと思うんですよ、感動するところって。当時の僕たちがやっていたドラマって、みんないるんな気持ちがあるけど、その下には優しいだったり、愛だったり、友情だったり、本当に大切なものがあるよねっていう、そういう感じなんです。『ゆうひが丘の総理大臣』のエンディングに毎回詩が出てくるんですけど、あの音楽が流れた途端にファンの方たちが言うのは、本当に人間ってそうだよ！ 人間って捨てたもんじゃないよね！ みんないるんな気持ちがあるけど、その下には愛があったり優しさがあったり、それって大事だよ！ っていうのをね、共通項で感じるような温かさがあるんですよ。いろんなことがあるんですけど、そのもっと奥には人間の本質、愛とか優しさとか真心があるんですよ。特に昔のドラマにはそれがあったんですよ。

♪ 『ゆうひが丘の総理大臣』の第 25 話「風が生徒にはこんな愛！」の脚本は、井上さんも共同執筆されたそうですね？

そうですね！ 今の時代じゃあり得ないことなんですけど、雅俊さんも 1 本脚本を書いたんですよ。僕はそれに触発されて、プロデューサーにこういう話やりたいんですけどって言ったら、「じゃあ、お前ちょっと書いて来い！」って言われたんです。それで、全部自分で書いて、少しアレンジしていただいたんですけど、そういう機会も作ってくれました。プロデューサーを含めて、みんなで作っていく！ って感じがありましたね。



♪ 『ゆうひが丘の総理大臣』の撮影中に、音楽的なイベントやプライベートでみんなで歌うような機会はありましたか？

北海道ロケに行った時に、洞爺湖の大きなホテルだったんですけど、地下に生バンドで演奏する広いステージがあったんです。そこで、毎晩雅俊さんがギターを弾きながら歌って、みんなで聴いていたことはありましたね。僕も歌いましたが、凄くいい思い出です。当時は『ゆうひが丘の総理大臣』が一番人気あった頃で、洞爺湖にある色紙が全部売り切れたんですよ。ホテルの周りにもすごい数のファンが来ていて、ドラマ自体が人気あったんですよ。

♪ 今、テレビ局から昔みたいなドラマを作って欲しいと依頼があったとしたら、どんなドラマを作りたいですか？

それは僕が何十年も舞台を大切にきて来たのと一緒に、結局ですね、僕が脚本を書く時もそうなんですけど、ベースはさっき言った話ですよ。人間って捨てたもんじゃない。光も闇もある。でも、光が大事だよ！ って、それを言いたいんですよ。みんな長所と短所があって、でもやっぱり人と人の絆とか、そういうものって、僕は出演するよりも脚本とか演出に興味があります。

♪ ジャズは即興・アドリブと言われることがありますが、俳優としてジャズ的なものを感じたことはありますか？

アドリブって言われて、一番凄いなと思ったのは西田敏行さん！ あの人は本当に天才的でした。『池中玄太 80 キロ』で 5 年ぐらい一緒にしたかな。あと、長門裕之さん。長門さんと西田さんのやりとりは、現場にいて楽しいというか、役者さんって凄くなってしまいましたね。僕がずっとやって来たことで、ひとつ思うことがあって、それは上手い役者って人のセリフを聞けるんですよ。西田敏行さんの凄さはそこですね。あの人は人のセリフを聞けるから、何でもいくらでも出てくるんですよ。人のセリフを聞けない人って、自分のセリフを言うことで精一杯で、アドリブどころの騒ぎじゃないんですよ。西田敏行さんってそういう意味では天才的でした。

♪ 中村雅俊さんはどのような存在ですか？

ひとことで言えば、お兄さん的な存在かな。現場が和むし、楽しい、大らかですね。主役の人が作る場の雰囲気って、やっぱりその人が作るものですから、本当に雅俊さんという意味では素晴らしい俳優さんですね。

♪ 他に芸能界で影響を受けた人はいますか？

実は僕には凄く影響を受けた人がいて、西城秀樹さんなんです。芸能人で一番仲良くなった人、一番影響を受けた人

です。きっかけは、僕は坂本龍馬が好きで、秀樹さんが龍馬役で出ていた『ミュージカル坂本龍馬』という舞台があったんです。それまで秀樹さんと会ったこともなかったんですけど、初めは、西城秀樹が坂本龍馬役？なんぼのもんじゃ！と思ったんです（笑）。でも、自分でチケットを買って観に行っただんですけど、無茶苦茶良かったですよ。感動しちゃったんです。

それから暫くして、たまたまあるゴルフ場のオープン記念にゲストとして呼ばれていたんです。ゴルフが終わって、みんなで食事をしていたら、秀樹さんもいたんです。あつ、秀樹さんだ！と思って、この前観た龍馬の舞台の話をしたいな...と思ったんですけど、僕から声をかけるのは恥ずかしいなと思っていました。でも、勇気を振り絞って挨拶に行っただんです。そしたら、「知ってるよ！ドラマ見てるよ！」って言ってくれたんです。僕も「秀樹さんの坂本龍馬観に行きました！本当に感動しました！素晴らしいかったです！」って言ったんです。そしたら「おつ、純ーくん！来年再演するんだけど、出ないか？」って言われたんです。でもその時は「いやいや、いいですよ、そんな...、龍馬のことだけ言いたくて来たので...」ってお断りしたんですけど、そのあと事務所に電話が来て、岡田慎太郎役でオファーが来たんです！

あと、秀樹さんの家は僕の家から5分くらいのところにあったんですよ。それから毎日秀樹さんとおつるんで、食事に行ったり飲みに行ったりしましたね。当時秀樹さんも独身だったので、僕のことを弟みたいに思ってくれていたんでしょけど、僕みたいのは都合が良かったんでしょね（笑）。今まで会った男性歌手の中で、秀樹さんはナンバーワンですね。歌は上手いし、魂はあるし、凄かったです。龍馬の時に舞台の袖で秀樹さんの歌を聴きましたけど、鳥肌が立ちましたね。こんな歌手がいるんだと思いました。人間的にも素敵なお人でした。



♪ 最近の趣味や興味について聞かせて下さい。

今年 67 歳になったんですけど、昔と決定的に違うのは、もの凄くシンプルになりました。昔は他趣味で、マンション 1 軒買えるくらいゴルフにお金を使ったり、いろんなことに興味がありましたけどね。今は YouTube で様々な分野のものを観るようになりましたね。一つは政治。僕は大好きなんです、政治が。あとはスピリチュアルなことですね。何故かという、真実を知りたいってこと。本当はどうなっているんだろう？日本は、今世界はどうなっているんだろう？って、最近はその意識の流れになって来ていますね。みんなが何かを求めている感じはしますよね。でも、真実を見極めるべく自分の眼を養わないといけないですよ。

♪ 最後に、夢や目標について聞かせて下さい。

夢や目標がだんだんシンプルになって来て、自分はこの人生で何をしたいのか。違う言い方すれば、自分は何で生まれて来たんだろう。そこに対する疑問追求ですよ。自分は本当に何をやりたいんだろう。人はみんないつ死ぬかわからないですからね。それを探るのも人生だし、もっと言い方を変えると、後悔したくないから、自分が本当にやりたいことをやる。それは僕にとっては書くこともかもしれない、舞台を何十年も作り続けていることなのかもしれないですよ。それを探るのが楽しいんです。

♪ 西城秀樹さんとコンサートで共演もあったのですか？

ありました！ディナーショーも一緒にやりました。僕はその時、郷ひろみさんの歌を歌いました（笑）。秀樹さんが「純ー、お前誰の歌が好きなんだ？」って笑くも同時に「よろしく哀愁」のイントロが流れて来ました（笑）。そういう掛け合いもありましたね。秀樹さんの曲で一番好きな曲は「ブルースカイ ブルー」です！名曲ですね。秀樹さんが亡くなったのは 63 歳でしたが、まだ若かったですよね。僕にとって特別な存在でした。

♪ 井上さんは作曲や作詞もされますか？

作曲はやらないですけど、書くの好きなんです。だから、詩を書くのが好きで、自分のパソコンの中に 300 くらいの詩があります。詩の内容は思うがまま。人生って時々いろんなことがあって、夜中にふと書きたくなるんですよ。いろいろ書いて、それが溜まっています。誰かに見せるつもりで書いていないから、思い付くまま書いてるんですよ。長さもいろいろです。誰にも見せたことはないですけど、僕が死んだ時に甥っ子や姪っ子が発見してくれて、「井上純一ってこんな詩を書いてたんだな」って、僕はそれでいいと思っています（笑）。17 歳で芸能界にデビューしたひとりの人間が、死ぬまでにこんなことを思っていたんだってね（笑）。

ゆうひが丘の総理大臣 ミュージックファイル【CD】

井上純一出演の大人気ドラマ劇伴集



TRY【LP】

井上純一 1st アルバム



井上純一直筆サイン入り CD・LP
プレゼント【抽選でそれぞれ 1 名様】

住所、氏名、電話番号を記載の上、下記アンケート①～④に回答頂き、件名に「井上純一直筆サイン入り CD・LP プレゼント」と明記の上、下記メールアドレス宛にお送り下さい。
⇒ thewalker@k07.itscom.net
①年齢 ②インタビューの感想 ③好きな井上純一出演作品 ④希望 (LP か CD)
※当選は発送にて代えさせていただきます。